

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学研究科
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 国際的研究交流方針の明示	→国際交流方針のホームページ、広報誌での明示の有無、英語版ホームページ開設の有無	C
2. 他研究所合同による海外との学术交流の促進	→派遣および受入学生の有無	C
3. 海外拠点校での教育支援活動の実施	→実施プログラム数（ Semester に1回）	B
4. 国際交流における学内他部局との連携の推進	国際交流における学内他部局との連携機関の設置の有無及びその結果としての受入学生数	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目7.0.1	(現状説明) G P 事業「国際発信能力の涵養－国際連携プログラム－」におけるプログラムについて毎年説明会を行い、参加者を募っている。
☆ 小項目7.0.2	(現状説明) G P 事業において国際連携プログラム北京師範大学「日中若手研究者フォーラム」、ネパール・トリブバン大学との「計量社会学セミナー」を実施した。
☆ その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

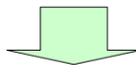
【社会学研究科】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	4	4	9	8	6	
			交換	人	0	1	1	0	0	
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	4.8	6.1	15.5	25.8	21.0	外国人留学生(正規)÷在籍学生数
			交換	%	0.0	1.5	1.7	0.0	0.0	外国人留学生(非正規)÷在籍学生数
その他 (セミナー等による受け入れ)		人	—	—	—	—	—			
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—		
		人 数	長期	人	0	0	0	0	0	
			短期	人	0	0	0	0	0	
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	0	0	0	0	0		
		短期	人	0	0	0	0	0		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	0	0	0	0	0		
		短期	人	0	0	0	0	0		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	—		

注) 正規、交換について
 正規とは学位取得目的(大学院生は特別学生を含む)。交換とは正規以外で大学院短期留学を含む
 注) 長期、短期について
 指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。
 指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 7.0.1	
★ 小項目 7.0.2	G P 事業「国際発信能力の涵養－国際連携プログラム－」により、北京師範大学に13名、トリブバン大学に9名を送り出し、北京師範大学から4名を受け入れた。なお、海外での個人研究発表をのべ7名が行った。
その他	



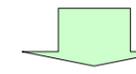
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 7.0.1	
★ 小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 7.0.1	
★ 小項目 7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 7.0.1	
★ 小項目 7.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○院生の海外交流や、海外での研究発表が行われており評価できます。なお、「GP事業」というのが学外者には分かりにくいので、何らかの説明があることが望まれます。

【学内委員】

○小項目7.0.1の説明においては、まず(方針)として、方針そのものを記述してから、現状説明してください。

○小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での説明だと思います。

○国際交流について、研究科レベルで方針を明示していませんか。大学の方針に準じている場合も、その旨を記述してはどうでしょうか。

○GP事業に関連する国際交流についての現状説明はありますが、社会学研究科としての現状説明はなく、これについては改めて説明することが求められます。また、小項目の進捗評価の状況を見ても国際交流はあまり進んでいるとは言えず、積極的な改善を行うことが求められます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

7.0.1 (方針) 社会の幸福に資するソーシャルリサーチ教育—ソシオリテラシーの涵養—の一環として国際発信能力を養成する。

(現状説明) 社会学研究科が採択されているGP事業(文部科学省大学院教育改革支援プログラム)「社会の幸福に資するソーシャルリサーチ教育—ソシオリテラシーの涵養—」の中の「国際発信能力の涵養—国際連携プログラム—」についてホームページで公開し、毎年社会学研究科大学院生を対象に説明会を行い、参加者を募っている。

7.0.2 社会学研究科が採択されているGP事業(文部科学省大学院教育改革支援プログラム)「国際発信能力の涵養—国際連携プログラム—」により、北京師範大学に13名、トリバン大学に9名を送り出し、北京師範大学から4名を受け入れた。なお、海外での個人研究発表をのべ7名が行った。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
